

平成26年1月の「大阪森林便り」

建築資材、上昇広がる — 杉・桧や塩ビ管など

駆け込み受注 着工本格化



住宅用の建築材料の価格が上昇しています。

木造住宅の柱に使う杉や桧の国産材が前月より1～2割高くなっています。

内装に使う石膏ボードや鉄筋、配水管用の塩ビ管も値上がりしました。

消費増税を控えた住宅の駆け込み受注はピークを過ぎたとみられますが、工事は今が最盛期とみられます。今後着工する住宅もあり、資材の引き合いは強くなっています。

杉製材品は1か月前に比べ9%高くなっています。桧製材品は18%高です。石膏ボー

国産木材は、夏に台風が相次ぎ伐採遅れで原材料となる丸太の価格が上昇しました。

(2013年12月4日日本経済新聞記事から抜粋)

間伐材使い漁礁開発 — サンセイ 山口県の事業で採用



ゴンドラ製造のサンセイは、間伐材を使った漁礁を開発しました。山口県内の森林組合から間伐材を仕入れます。間伐材を使うと、エビやゴカイなど稚魚のエサが自然繁殖し、餌場の条件が整います。

(2013年12月13日日本経済新聞記事から抜粋)



輸入合板、半年ぶり上昇

マンション建設需要拡大



輸入合板の国内取引価格が約半年ぶりに上昇しています。民間の住宅建設が高水準で、公共工事向けの需要も拡大しています。製材品などで進んできた木材の値上がりが、一段と広がっています。国産合板は輸入に先行して値上がりし、2013年初比で約3割高くなっています。杉製材品や桧製材品は2013年10月以降大幅に上昇しています。

(2013年12月18日 日本経済新聞記事から抜粋)

国産丸太、9年ぶり高値 — 11月卸値 需要増、製材品も上昇

輸入材にシフトの動きも



国産丸太の取引価格が一段と上昇し、主力の杉丸太は9年ぶりの高値を付けました。

消費増税前の住宅の駆け込み需要を背景に、製材業者が活発に買い付け、需給が締められました。製材品の卸価格も上昇を続けています。国産製材品の不足から、輸入材にシフトする動きも一部で出始めています。

(2013年12月25日 日本経済新聞記事から抜粋)

合板対日価格 2か月連続上昇



コンパネの対日価格が2か月連続で上昇しました。11月は前月と比べ3%高くなっています。商社は国内需要の拡大を受けて輸入合板の調達を増やそうとしていますが、マレーシアの合板業者が供給量を調整しているもようで、「必要な量の7割しか手当てできない」(輸入商社)など、安定調達が難しいケースも出ています。

(2013年12月26日 日本経済新聞記事から抜粋)